

# [第 140 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 5年 7月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 5 年 8 月 6 日 (日) 15時～17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」  
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.255～(用意します)  
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

令和 5 年 7 月 1 日(土)、安曇川公民館で第 139 回藤樹人間学塾を開きました。今回は 40 代の初参加者と京都市、湖南省からの参加者を入れて 10 名でした。

## ■ テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第五巻 慈残報の第 8 話～第 10 話

## ■ あらすじ

第 8 話 晋の献公の夫人には 2 人の子がいた。夫人はわが子を世継ぎにしたいと思い、継子の太子を殺して実子を太子に立てたが、献公が亡くなると息子の太子も夫人自身も国人に殺された。第 9 話(略)、第 10 話(略)

## ■ 配布資料

(1)「まなざし 458 号」、(2)NHK 人間の時代「戦争 なぜ殺し合うのか」(TV)、(3)横田南嶺「持戒安楽」(致知)、(4)三木英一「『活学』に学ぶもの」(致知)

## ■ 今日のポイント

- ・ 継子と実子は一体なので、両者を区別することなく愛することが自身に幸福をもたらす。
- ・ 「戦争 なぜ殺し合うのか」…ヒトを含む多様な脊椎動物は、脳内にオキシトシンという、愛情ホルモン、幸せホルモンと呼ばれる物質を持っており、これが発出されると子供や隣人を愛したりする絆ホルモンである。しかし、このオキシトシンは、線引きをしてその線内にあるものを大事にし、その線外にあるものを攻撃するという負の側面を持っている。これが実子と継子、特定の集団と他集団、人種、民族、国等の区別をして他を攻撃することにつながっている。
- ・ 第三次世界大戦が起こり、核兵器が使用されれば人類や多くの生物は滅亡してしまう。
- ・ 戦争をなくす策は、オキシトシンの線引きの輪を拡大することである。気候問題、環境問題、食糧問題などに対応するよう、人類全体を線の中に入れ、人類愛でまとまる必要がある。
- ・ 戦争をなくすために、中江藤樹の「孝の思想」が役立つ。

## ■ フリートークング

- ・ 「戦争に行った義父が殺し合う苦しみを抱えていた。その苦しみが薄れる飛び道具の発達は怖い」
  - ・ 「戦争の大義はほとんどがプロパガンダ(政治的宣伝)で歪められており、あてにならない」
  - ・ 「戦争をなくすには、まず家族が仲良くすることから始まる。人の悪口を言わないことも大事」
- 等の意見をいただきました。ありがとうございます。皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。

